

**1605年に長崎で出版された典礼書
『サカラメント提要』に記された楽譜の印刷工程**

(課題番号 15520406)

平成15年度～平成16年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2)

平成17年5月

研究代表者 竹井成美
(宮崎大学教育文化学部)

はしがき

本研究は、平成15年度～平成16年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)に採択され、2年間で総額700千円の研究のまとめである。

これは、平成7年度～平成9年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)で、「西洋音楽との最初の出会から隠れキリシタンの『歌おらしょ』へ至る南蛮音楽盛衰史」で明らかにできなかった課題でもあり、その後、平成15年度の科学研究費補助金に採択されるまでの平成11年には、上智大学で行われた国際シンポジウム“ザビエル渡来450周年記念シンポジウム”で“『サカラメンタ提要』が語るもの”と題した講演をする機会に恵まれ、その講演の内容をまとめた論文として『「東洋の使徒」ザビエルⅡ』(Sophia University Press, 2000)に収録されたものに準じるものでもある(したがって、本報告書の末尾にその本文も収録した)。

1605年に長崎のコレジョ(大神学校)で印刷されたラテン語(一部ポルトガル語とアルファベットによる日本語)による『サカラメンタ提要』という典礼書の中には、その後半部分の「葬儀のための典礼」の箇所、点々と祈りの歌であるグレゴリオ聖歌が19曲収録されている。それらは、五本の譜線が朱色で、また当時ヨーロッパで用いられていた特殊な四角い形をした、いわゆるネウマ譜(音符)は黒色で印刷されており、いわば二重式の楽譜印刷で刷られている。まさに日本初の楽譜印刷によるものである。

本研究では、以下の2つを明らかにするとともに、19曲のグレゴリオ聖歌のいくつかをレクチャーコンサートや講演の中で一般の人々に再現・紹介することができた。

- ① 今日、東洋文庫と上智大学キリシタン文庫に存在するそれぞれの『サカラメンタ提要』の原本を比較すると、例えば1曲目の「Subvenite sancti Dei」は数カ所の植字ミスと思われる箇所が判明した。また当時のゴツゴツしたネウマ譜の一つひとつの印刷工程をチェックしながら、19曲すべてを今日の五線譜に解読することができた(しかし、その全容はあとしばらく研究が必要であり、機会をあらためてまとめて発表の予定である)。
- ② 19曲中の1つ「Tantum ergo」は、当時のポルトガルとスペインでしか歌われていなかった、いわばローカル聖歌であることを、当時のスペインの作曲家たちの作品の中から証明することができた(その一部はレクチャーコンサートの中で再現・紹介した)。
- ③ 当時の日本で歌われた可能性のあるグレゴリオ聖歌を、折に触れてレクチャーコンサートや16世紀の東西交流史をテーマとした講演の中で実際に演奏したり、CDで紹介することができた。折しも、今年『サカラメンタ提要』の印刷から400年に当たり、なんらかの形で19曲全曲を演奏する企画をしたいと考えている。

研究組織

研究者： 竹井 成美 (宮崎大学教育文化学部教授)

交付決定額 (配分額)

(金額単位：千円)

	直接経費	間接経費	合計
平成14年度	200	0	200
平成15年度	500	0	500
総計	700	0	700

研究発表

(1) 学会誌等

- ① 竹井成美「ゆふいん西洋音楽探訪～ルネサンス時代の最後を飾る
ラッソーの音楽を中心にして」
由布院空想の森アルテジオ 2003年7月25日
- ② 竹井成美「ゆふいん西洋音楽探訪～『サカラメンタ提要』をめぐる
音楽」
由布院空想の森アルテジオ 2004年7月30日
- ③ 竹井成美「宗麟の耳を楽しませた西洋音楽」
大分市歴史資料館 2004年11月14日
- ④ 竹井成美「ステージレクチャーコンサート『ア・カペラの響き』」
大分県文化財団グランシアタ 2004年12月10日
- ⑤ 竹井成美「レクチャーコンサート『伊東マンショの西洋音楽行脚』」
宮崎県立芸術劇場演劇ホール 2005年3月19日

(2) 出版物

- ① 竹井成美「『サカラメンタ提要』が語るもの」
ザビエル渡来450周年記念行事委員会編『「東洋の使徒」
ザビエルII』Sophia University Press
日本語版pp.104-149、英語版pp.122-130
2000年11月